

④ 平成29・30年度 新穂高溪流保全工(合流点床固工)工事

における冬期間の安全対策と作業環境について

辻建設(株) 平成29・30年度
新穂高溪流保全工(合流点床固工)工事
(工期:平成29年 9月 1日～平成30年 7月 6日)

現場代理人 ○ 矢後 政幸

キーワード 交通災害・転倒災害・作業環境



1. はじめに

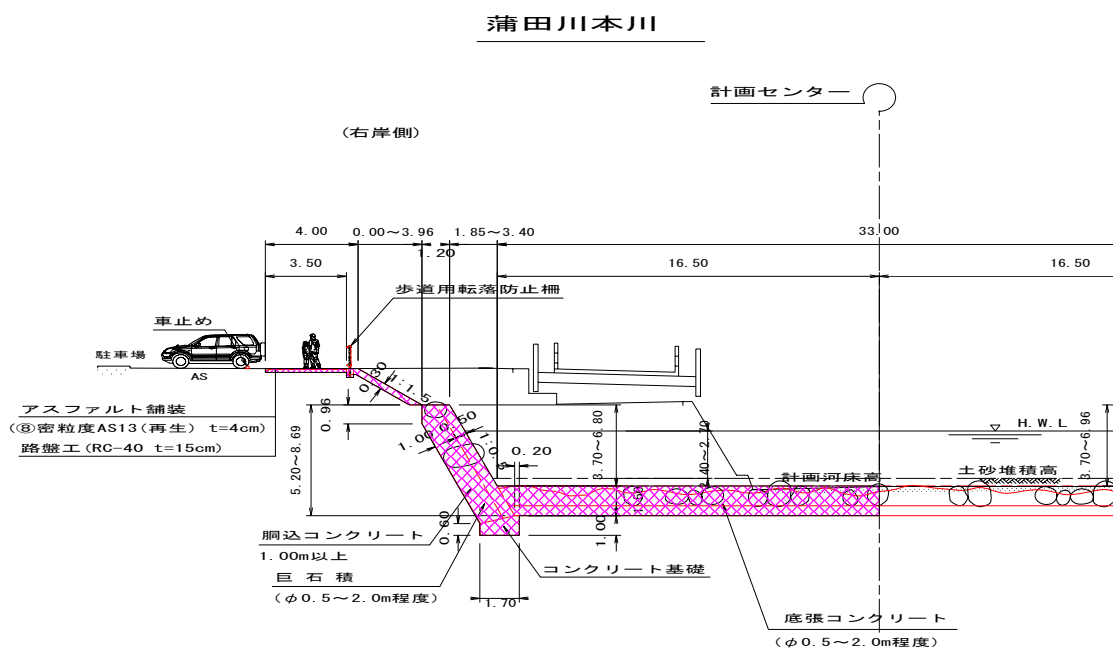
本工事は、北アルプス中部山岳国立公園内の蒲田川支流左俣谷・右俣谷の合流部に位置し、地域の方々の安らかな暮らしと、豊かな自然を守るため、大雨等の異常出水による土石流災害を防止するために溪流保全工の工事を行います。

工事の特徴としては、周辺の自然環境に配慮するため、現地採取した巨石(φ0.5～2.0m)を利用して護岸・床固めを施し、河道を広げることによって、土石流による災害から周辺地域を守ることを目的とします。

今回は、奥飛騨地域特有の寒さ厳しい中での施工が主となるため、厳寒期に対処するための安全対策と作業環境について、ここに報告致します。

2. 工事概要

砂防土工 1式、法面工 1式、流路護岸工 1式、床固め工 1式
付帯道路工 1式、構造物撤去工 1式、仮設工 1式



着手前 全景



12月末現在の現場状況は、河道の半川締切が完了し、既設構造物の取壊し
本体工事の掘削作業にとりかかっている
状態です。



3. 冬期間の安全対策 について

1. 温泉を利用した凍結対策

現在、コンクリート廃材や土砂の搬出により、工事車両の運行する日が続いています。
12月に入ると、平均気温は0℃を下回り、運行路や作業通路の凍結により、交通災害や
作業員の転倒災害が危惧されます。作業前の除雪・融雪に加え、補完的措置として周辺
の観光施設より余剰分の温泉をお借りし、運行路や作業通路の融水に使用しています。



2.路肩・搬入路の明示

冬場の最盛期ともなると、この地では軽く1mを超える積雪となります。よって、カラーコーンやバリケード類では導線の明示が困難となり、前もって赤白のポールに視認しやすい色のもを取付けて対処しています

作業前の除雪時や工事車両の運行時に支障をきたさないよう、今後も適宜設置していきます。



4. 冬期間の作業環境 について

1.乾燥室の設置

前回工事の時、毎日の作業で濡れた冷たい防寒着や合羽、手袋を保管する場所が正直ありませんでした。この時の反省をふまえ、今回は作業員の防寒着などを干しておくスペースとして、別棟で乾燥室を設けました。濡れていなくても、毎朝冷えたものを着て作業に向かうのは、好ましくない環境だと思います。エアコンと除湿器のおかげで、非常に効果があるように思います。欲をいえば、先述に記した温泉をここに利用できればよかったですのですが・・・。

作業員は、毎朝ここに入ってから作業にむかいます。



2. 普通の環境をつくる

この現場は、私が記憶している中でも最低 -15°C 近くまで下がったときがあります。正直、作業に向かう前から気分が滅入ってしまいそうです。環境の向上までいなくても、夏場も冬場も同じような中で、作業に向かえるような環境づくりに課題が山積みです。

暖をとり、手洗いができ、トイレも普通に機能するようなどころからはじめています。快適トイレを設置しても、凍って水洗機能も果たせないようなものは、快適でもなんでもありません。不凍液を入れても凍ってしまうような状況が昨年までありましたが、今年は便座も温暖に、トイレ内には24時間温風を吹き流して凍結対策をしています。

(全面人工芝の設置)



(温風の循環)



5. おわりに

工事はこれから最盛期に向かうところではありますが、昨年と比較しても今年は寒さ厳しく、冬の到来が早いように思われます。ただ、雪や寒さはこれからが本格的になります。。

どのような状況においても、一人一人が安全意識の高揚に努めることによって、より良い作業環境を築くことができ、無事故・無災害へも繋がるものと思われます。

今後も施工や安全に対して創意工夫を立案して、現場に取り入れたいと考えております。関係各位の皆様方には、今後も引き続きご指導下さいますよう、宜しくお願いいたします。

